

報道関係 各位

2019年10月21日
株式会社日本レースプロモーション

10月26日(土)～27日(日)
2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 最終戦 第18回 JAF 鈴鹿グランプリ

開催概要

株式会社日本レースプロモーション(代表取締役社長 倉下 明、所在地:東京都千代田区)は、10月26日(土)～27日(日)の2日間、三重県鈴鹿市 鈴鹿サーキット国際レーシングコース(1周: 5.807 km)において、「2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 最終戦 第18回 JAF 鈴鹿グランプリ」を開催いたします。

今大会は、ノックアウト方式による公式予選と、決勝レース 43周((249.701km))で争われます。

今大会の公式予選 Q1 は、第3戦スポーツランド SUGO 大会、第6戦岡山国際サーキット大会と同様、2つのグループ(A組とB組)に分けて実施します。但し、今大会は抽選による振り分けではなく、前大会終了時点でのドライバーズランキング上位よりA組・B組に振り分け、参加車両が複数台のエントラントについては、少なくとも1台を別の組分けとします。

(→詳細は添付「公式通知 No.2 公式予選 Q1 グループ分け」を参照)

また、タイヤ交換義務に関しては、SF 最終戦特別規則書 第26条 1)に則り実施されます。

(→詳細は次ページ「決勝レース」を参照)

前戦の岡山国際サーキット大会は、2位からスタートした山下 健太(コンドール レーシング)が初優勝を果たし、4番手からスタートした中嶋 一貴(バンテリン チーム トムス)が今季初の表彰台となる2位、12番手スタートのルーキー、ハリソン・ニューウェイ(ビーマックス・レーシング ウィズ モトパーク)は自身初の3位入賞など話題の多い大会となりました。また、ポイントランキングでトップだったニック・キャシディ(バンテリン チーム トムス)は、10位でポイント獲得ならず、ランキング2位だった山本 尚貴(ドコモ・チーム・ダンディライアン・レーシング)は、16番手スタートながら7位まで巻き返し2ポイントを獲得、29ポイントでランキングトップに振り返り、最終戦鈴鹿で決着の時を迎える事となりました。

最終戦の優勝者には優勝ポイント10、ボーナスポイント3、及びポールポジションの1ポイントを含めれば、最大14ポイント獲得の可能性がある。これにより、優勝すれば自力でチャンピオンの座を射止められるのは、トップの山本、1ポイント差2位のキャシディ、ルーキーながら25ポイントで3位のアレックス・パロウ(ティーシーエス・ナカジマレーシング)の3選手。これに最大14ポイントを獲得すれば、上位選手の結果次第ながら、21ポイント4位の山下、19ポイント5位の小林 可夢偉(カロツツェリア チーム ケーシーエムジー)も十分チャンピオンを狙える位置につけています。

毎大会勝者が異なり、誰が勝っても不思議ではない今シーズン、栄冠を手にするのは誰なのか。まさに目が離せない大注目の最終戦となります。



ドライバーポイントランキングトップの山本 尚貴(ドコモ・チーム・ダンディライアン・レーシング)

公式予選

Q1(各組10分間) 公式予選Q1を2つのグループ(A組とB組)に分け、各組10分間の走行とする。
各組の上位6台が(Q2)へ進出する。
実施に当たっては、大会特別規則書第25条の運用に準じる。

・予選Q1の運用について

- 1) 公式予選Q1を2つのグループ(A組とB組)に分けて実施する。
- 2) グループ分け方法は前大会終了時点でのドライバーズランキング上位よりA組・B組に振り分ける。
→詳細は添付「公式通知 No.2 公式予選 Q1 グループ分け」を参照
- 3) 参加車両が複数台のエントラントについては、少なくとも1台を別の組分けとする。
- 4) 公式予選Q1は各組10分間の走行とする。
- 5) 各組の上位6台がその次のセッション(Q2)へ進出する。
- 6) 公式予選通過基準タイムは、Q1各組において達成された同組1位タイムの107%以内とする。
- 7) Q2に進出できなかった車両には、Q1で最も速いタイムを記録した組のQ1順位7番に総合予選順位13番が与えられ、別の組のQ1順位7番に総合予選順位14番が与えられる。以降交互に総合予選順位が決定される。

Q2(7分間) 上位8台がQ3に進出。9～12位の順位が確定。

Q3(7分間) 1～8位の順位が確定。

・セッションの間のインターバルは各10分。

・ノックアウト方式の名称は、予選にて好タイムが出なければその場でノックアウト(脱落)されることから、この呼称となりました。

※Q1=ミディアムタイヤのみ使用可能。

※Q2、Q3=ソフトタイヤ、ミディアムタイヤの使用が可能。

決勝レース

1周:5.807km × 43周 = 249.701km

最大レース時間 : 1時間30分

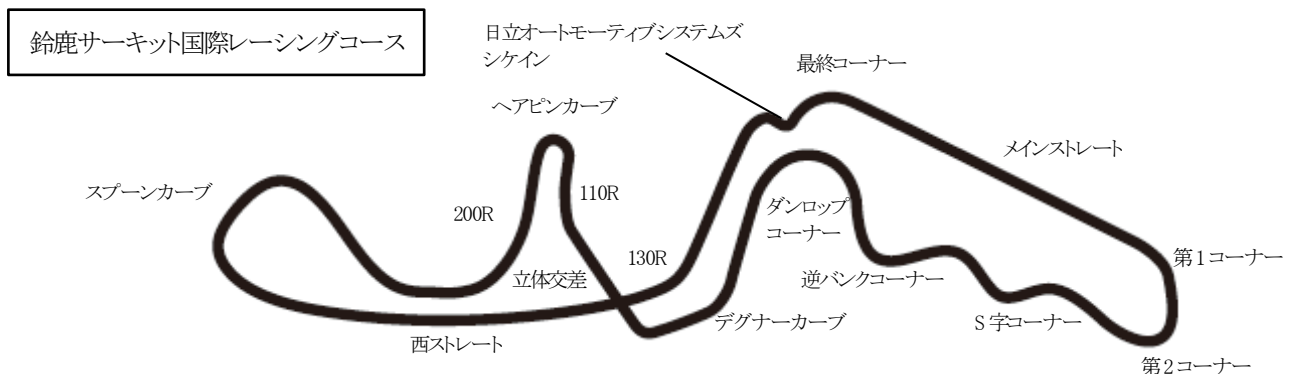
決勝レースでは、SF最終戦特別規則書 第26条 1)に則り、ソフトタイヤ、ミディアムタイヤ、2種類の使用が義務付けられています。

※SF最終戦特別規則書 第26条 1)

決勝レース中に先頭車両が7周回目を完了した時点から先頭車両が最終周回に入る前までに異なる種類のタイヤを使用しなければならぬ。上記のタイヤ交換義務を完了せずにレースが終了するまで走行した車両は失格とする。

鈴鹿サーキット国際レーシングコースについて

コースは東西に細長く、中間部分の立体交差をはさんで右回りと左回りが入り替わる、世界的にも珍しい8の字形のレイアウトとなっています。コース全長は5.807kmで、日本のサーキットの中で最長です。コース幅は10～16m。コーナー数は18。最大高低差は52m。世界の多くのサーキットと比べ摩擦係数の高いアスファルト舗装です。土地の高低差と低速～高速コーナーのバランスが上手く配合されており、難易度が高く走り甲斐のあるコースとして評価されています。



2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 最終戦 エントリーリスト

2019年10月20日現在

Car No.	ドライバー名	生年月日	出身地	チーム名 (読み)	監督	エンジン
1	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	1988/ 7/11	日本/栃木県	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモ・チーム・ダンディライアン・レーシング)	村岡 潔	HONDA/M-TEC HR-417E
5	福住 仁嶺 Nirei Fukuzumi	1997/ 1/24	日本/徳島県			
3	山下 健太 Kenta Yamashita	1995/ 8/ 3	日本/千葉県	KONDO RACING (コンドーレーシング)	近藤 真彦	TOYOTA/TRD Biz-01F
4	国本 雄資 Yuji Kunimoto	1990/ 9/12	日本/神奈川県			
7	中山 雄一 Yuichi Nakayama	1990/ 9/12	日本/神奈川県	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS (ウオモ スノコ チーム ルマン)	片岡 龍也	TOYOTA/TRD Biz-01F
8	大嶋 和也 Kazuuya Oshima	1987/ 4/30	日本/群馬県			
15	ユリー・ビップス Juri Vips	2000/ 10/ 8	エストニア	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	中野 信治	HONDA/M-TEC HR-417E
16	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	1989/ 9/15	日本/茨城県			
17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	1986/ 11/20	日本/栃木県	REAL RACING (リアルレーシング)	金石 勝智	HONDA/M-TEC HR-417E
18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	1986/ 9/13	日本/兵庫県	carrozzeria Team KCMG (カロッツェリア チーム ケーシーエムジー)	松田 次生	TOYOTA/TRD Biz-01F
19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	1987/12/29	日本/東京都	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インバル)	星野 一義	TOYOTA/TRD Biz-01F
20	平川 亮 Ryo Hirakawa	1994/ 3/ 7	日本/広島県			
36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	1985/ 1/11	日本/愛知県	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	館 信秀	TOYOTA/TRD Biz-01F
37	ニック・キャンディ Nick Cassidy	1994/ 8/19	ニュージーランド			
38	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	1981/ 4/23	日本/東京都	JMS P.MU/CERUMO・INGING (ジェームスビーエムユーセルモインギング)	立川 祐路	TOYOTA/TRD Biz-01F
39	坪井 翔 Sho Tsuboi	1995/ 5/21	日本/埼玉県			
50	ルーカス・アウアー Lucas Auer	1994/ 9/11	オーストリア	B-Max Racing with motopark (ビーマックス・レーシング ウィズ モトパーク)	本山 哲	HONDA/M-TEC HR-417E
51	ハリソン・ニューウェイ Harrison Newey	1998/ 7/25	イギリス			
64	アレックス・パロウ Alex Palou	1997/ 4/ 1	スペイン	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	中嶋 悟	HONDA/M-TEC HR-417E
65	牧野 任祐 Tadasuke Makino	1997/ 6/28	日本/大阪府			

本田技研工業/M-TEC製エンジン使用チーム:5チーム9台
トヨタ自動車/TRD製エンジン使用チーム:6チーム11台

2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 ポイントランキング

ドライバーポイントランキング

順位	No.	ドライバー	トータル ポイント	2019/4/20-21	2019/5/18-19	2019/6/22-23	2019/7/13-14	2019/8/17-18	2019/9/28-29	2019/10/26-27
				SUZUKA Rd.1	AUTOPOLIS Rd.2	SUGO Rd.3	FUJI Rd.4	MOTEGI Rd.5	OKAYAMA Rd.6	SUZUKA Rd.7
1	1	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	29	8	8	11	0	0	2	
2	37	ニック・キャシディ Nick Cassidy	28	10	1	5	6	6	0	
3	64	アレックス・パロウ Alex Palou	25	0	3	0	11	6	5	
4	3	山下 健太 Kenta Yamashita	21	6	2	3	0	0	10	
5	18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	19	0	0	8	3	8	0	
6	50	ルーカス・アウアー Lucas Auer	14	2	0	6	0	2	4	
7	36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	12	0	0	0	4	0	8	
8	39	坪井 翔 Sho Tsuboi	12	4	0	0	8	0	0	
9	5	福住 仁嶺 Nirei Fukuzumi	12	0	4	4	0	4	0	
10	20	平川 亮 Ryo Hirakawa	11	0	0	0	0	10	1	
11	19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	11	0	10	0	1	0	0	
12	16	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	11	5	0	0	5	1	0	
13	8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	7	0	6	0	0	0	1	
14	38	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	7	0	0	2	2	3	0	
15	51	ハリソン・ニューウェイ Harrison Newey	6	0	0	0	0	0	6	
16	65	牧野 任祐 Tadasuke Makino	6	1	5	0	0	0	0	
17	4	国本 雄資 Yuji Kunimoto	5	3	1	1	0	0	0	
18	15	パトリシオ・オワード Patricio O'ward	3	-	-	-	0	0	3	
19	15	ダニエル・ティクトウム Daniel Ticktum	1	1	0	0	-	-	-	
	7	中山 雄一 Yuichi Nakayama		-	-	-	-	-	0	
	7	アーテム・マルケロフ Artem Markelov		0	0	0	0	0	-	
	17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi		-	0	0	0	0	0	
	17	トリストラン・シャルパンティエ Tristan Charpentier		0	-	-	-	-	-	

※表中ポイント数字の **太字**：優勝 下線：予選ポールポジション

※ 最終戦鈴鹿大会に限り、レースの勝者には通常ポイントとは別に3ポイントが与えられる。

※ 最終戦終了時点で、複数のドライバーまたはチームが同一のポイントを得た場合、高得点を得た回数が多い順に順位を決定する。

※ルーキー・オブ・ザ・イヤー：当該年度初参戦となるルーキードライバーが3名以上存在する場合、その中で年間獲得ポイント最上位の選手に贈られる。

(ルーキー：SFの決勝レース出走回数が積算で4戦未満のドライバー)

チームポイントランキング

順位	No.	チーム	トータル ポイント	2019/4/20-21	2019/5/18-19	2019/6/22-23	2019/7/13-14	2019/8/17-18	2019/9/28-29	2019/10/26-27
				SUZUKA Rd.1	AUTOPOLIS Rd.2	SUGO Rd.3	FUJI Rd.4	MOTEGI Rd.5	OKAYAMA Rd.6	SUZUKA Rd.7
1	1 5	DDCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモ・チーム・ダンディライアン・レーシング)	40	8	12	14	0	4	2	
2	36 37	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリンチームトムス)	40	10	1	5	10	6	8	
3	64 65	TCS NAKAJIMA RACING (ティシーエス・ナカジマレーシング)	28	0	8	0	10	5	5	
4	3 4	KONDO RACING (コンドーレーシング)	25	9	2	4	0	0	10	
5	19 20	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトチュウエネクスチームインパル)	21	0	10	0	1	10	0	
6	50 51	B-Max Racing with motopark (ビーマックスレーシングウイズモトパーク)	20	2	0	6	0	2	10	
7	38 39	JMS P.MU/CERUMO・INGING (ジェームスビーエムユーセルモインギング)	19	4	0	2	10	3	0	
8	18	carrozzeria Team KOMG (カロッツェリアチームケーシーエムジー)	19	0	0	0	8	3	8	
9	15 16	TEAM MUGEN (チームムゲン)	15	6	0	0	5	1	3	
10	7 8	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS (ウオモスノコチームルマン)	7	0	6	0	0	0	1	
	17	REAL RACING (リアルレーシング)	0	0	0	0	0	0	0	

※表中ポイント数字の **太字**：優勝

※チームポイント：各チーム(エンタラント)に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。同一チーム(エンタラント)に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。チームポイントには、ポールポジションのポイントは与えられない。

—開催概要—

- 大会名称 : 2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 最終戦 第18回 JAF 鈴鹿グランプリ
- 開催日程 : 2019年10月26日(土) 公式予選
2019年10月27日(日) 決勝レース
- 開催サーキット : 鈴鹿サーキット国際レーシングコース(1周:5.807km)
- 主催 : 名古屋レーシングクラブ(NRC)
鈴鹿モータースポーツクラブ(SMSC)
株式会社モビリティランド
- 公認 : 国際自動車連盟(FIA)
一般社団法人日本自動車連盟(JAF)
- 認定 : 株式会社日本レースプロモーション(JRP)
- 後援 : 三重県/鈴鹿市/鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会
/一般社団法人 鈴鹿市観光協会/鈴鹿商工会議所
- 同日開催 : FIA WTCR Race of Japan
TCR Japan Series 2019 第5戦

【TV放映】

■ BSフジ『2019スーパーフォーミュラ選手権 第7戦 鈴鹿サーキット』

一昨年から無料/全国放送のBSフジでスタートした「決勝レース中継」を今年も放送いたします。今年は昨年までの生放送から決勝レース当日の夕方という、より視聴者の多い時間帯での録画放送に変更し、レース前の見所やルール解説、レース終了時の総括、そして表彰式まで、決勝レースの全体像をキチンと視聴者の皆様にご覧いただきます。

○放送時間：2019年10月27日(日) 18:00～19:55

○実況：塩原 恒夫

○解説：鈴木 亜久里

○ピットレポート：千代 勝正

■ BSフジ『スーパーフォーミュラ GO ON!』

今年は内容を一新し、今シーズン国内外の若手ルーキードライバーをはじめ、注目のドライバーにフォーカスを当て、彼らにゆかりのある選手や監督をゲストに迎え、新たな情報番組としてお送りします。

○放送時間：第8回 総集編 2019年12月27日(金) 23:00～23:55 (再放送 未定)

○進行：本田 朋子

○ナレーション：樋口 日奈(乃木坂46)

■ J SPORTS『スーパーフォーミュラ 2019』

全7戦の予選と決勝の様様をライブ中継。再放送やレースダイジェスト番組も放送します。

尚、放送時間、放送チャンネルは予告なく変更される場合がありますので、「J SPORTSモータースポーツ」内の「スーパーフォーミュラ」ページか、「スーパーフォーミュラ オフィシャルウェブサイト」でご確認ください。

『スーパーフォーミュラ 2019 第7戦 鈴鹿サーキット』

予選 2019年10月26日(土) 12:15～ J SPORTS 3 <生中継>

決勝 2019年10月27日(日) 13:30～ J SPORTS 3 <生中継>

【映像配信】

■ Yahoo! GYAO!

大会終了10日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドで無料配信。

※配信日時は変更となる場合があります。

<http://gyao.yahoo.co.jp/sports/>

■ YouTube

予選ならびに決勝の競技映像をダイジェスト版にて当日夜配信。

※配信日時は変更となる場合があります。詳しくは予選ならびに決勝日の夜、「スーパーフォーミュラ オフィシャルウェブ
サイト」でご確認ください。

superformulavideo-YouTube

<https://www.youtube.com/user/superformulavideo>

【海外配信/放送】

■ motorsport.com (配信)

■ LetsGoRacing (Youtube Channel Livestream) (配信)

■ motorsport.tv (放送)

【インターネット/SNS】

■ オフィシャルWEBサイト

<http://superformula.net>

■ 公式LiveTimingアプリ

i OS,Android 対応無料ライブタイミングアプリ「SUPERFORMULA」で検索

■ スーパーフォーミュラオフィシャル Twitter

https://twitter.com/SUPER_FORMULA

※公式ハッシュタグ『#sformula』

■ スーパーフォーミュラオフィシャルFacebook

<https://www.facebook.com/superformula.official>

※公式ハッシュタグ『#sformula』

■ オフィシャル Instagram

https://www.instagram.com/superformula_official

※公式ハッシュタグ『#superformula』

【チケット情報】

●前売観戦券(2日間有効・税込) 遊園地モトピアパスポート1日券付

大人 : 4,100円 / 中高生:4,100円
小学生 : 3,200円 / 3歳～未就学児:2,100円

●前売観戦券(2日間有効・税込) レース観戦のみ

中高生 : 1,800円
小学生 : 900円 / 3歳～未就学児:700円

●グループチケット(2日間有効) 遊園地モトピアパスポート1日券付

3名 : 11,100円 (1名あたり3,700円)
4名 : 14,000円 (1名あたり3,500円)
5名 : 16,500円 (1名あたり3,300円)

※4月19日(金)も入場可

※前売りのみの販売

●パドックパス

中学生以上 : 7,400円 / 3歳～小学生:1,700円

※別途観戦券が必要です

●ピットウォーク券

中学生以上 : 2,200円(各日) / 3歳～小学生:無料

※別途観戦券が必要です

レースチケットのご案内 (<https://www.suzukacircuit.jp/superformula/ticket/index.html> /)をご参照ください。

*この件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。
株式会社日本レースプロモーション (<http://www.superformula.net/>)
102-0074 東京都千代田区九段南 2-3-25 平安堂ビル
e-mail:media@superformula.net
Tel:03-3237-0131 Fax:03-3237-0135

【2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 参考資料】

1. 全日本スーパーフォーミュラ選手権とは？

純然たるレーシングマシンであるオープン・シングルシーターのフォーミュラカーによって競われる国内最高峰の自動車レースです。一般社団法人日本自動車連盟(JAF)が公認し、株式会社日本レースプロモーションのプロモートにより、1996年にフォーミュラ・ニッポンとしてスタート。2013年より名称をスーパーフォーミュラに変更し現在に至っています。

2. チャンピオンシップ

2019年全日本スーパーフォーミュラ選手権は、全7戦、日本全国6カ所のサーキットを11チーム(エントリー)、国内外の20名(20台)のドライバー(※1)が転戦しチャンピオンが争われる、アジア地域唯一の国際格式選手権シリーズです。

(※1)ドライバー:国内:15名、海外:5カ国(イギリス、エストニア、オーストリア、スペイン、ニュージーランド)5名

2019年全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ開催スケジュール

日程	ラウンド/サーキット	予選方式	決勝レース方式
4 / 20 ~ 21	第1戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	250 km
5 / 18 ~ 19	第2戦/オートポリス	ノックアウト	250 km
6 / 22 ~ 23	第3戦/スポーツランドSUGO	ノックアウト	250 km
7 / 13 ~ 14	第4戦/富士スピードウェイ	ノックアウト	250 km
8 / 17 ~ 18	第5戦/ツインリンクもてぎ	ノックアウト	250 km
9 / 28 ~ 29	第6戦/岡山国際サーキット	ノックアウト	250 km
10 / 26 ~ 27	第7戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	250 km

2019年シリーズ選手権 ポイントシステム

順位	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位以下	PP
1大会1レース	10	8	6	5	4	3	2	1	0	1

※ 最終戦鈴鹿大会に限り、レースの勝者には通常ポイントとは別に3ポイントが与えられる。

※ 最終戦終了時点で、複数のドライバーまたはチームが同一のポイントを得た場合、高得点を得た回数が多い順に順位を決定する。

●ルーキー・オブ・ザ・イヤー：当該年度初参戦となるルーキードライバーが3名以上存在する場合、その中で年間獲得ポイント最上位の選手に贈られる。
(ルーキー:SFの決勝レース出走回数が積算で4戦未満のドライバー)

●チームポイント：各チーム(エントリー)に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。
同一チーム(エントリー)に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。
チームポイントには、ポールポジションのポイントは与えられない。

3. シリーズ賞典

各レースでの入賞成績に応じて与えられるポイントの合算により、シリーズチャンピオンが決定。ドライバーとチームの2部門に全日本スーパーフォーミュラ選手権のタイトルが懸けられチャンピオン獲得者には下記の賞典が授与される。

- チーム チャンピオン
 - ・経済産業大臣杯
- ドライバーズ チャンピオン
 - ・ドライバーズチャンピオンカップ
 - ・観光庁長官杯
 - ・自由民主党モータースポーツ振興議員連盟杯
- ルーキー オブ ザ イヤー
 - ・トロフィー

4. レース車両

◎シャシー

車両は、2018年までのSF14で実績のあるイタリアのダラーラアウトモビリティ社の設計・製作によるもので、SF14のコンセプト「Quick&Light」を継続しつつ、2017 FIAの安全基準に対応し、空力の見直しにより、さらにオーバーテイクし易くなることで、ドライバー同士のバトルが際立つ、エンターテインメントと競技の両立を目指して開発されました。

◎エンジン

日本を代表する自動車メーカーであるホンダとトヨタが次世代エンジン開発に貢献するコンセプト=NRE(※2)に基づき開発した本田技研工業/M-TEC製/HR-417E、トヨタ自動車/TRD製/Biz-01Fを搭載しています。

このエンジンの特徴としては、「燃料リストラクター」(燃料流量規制システム)を全機装備し、燃料流量を一定にすることにより燃料をいかに効率良く活用しパワーに結びつけるかが、勝負の鍵となります。

厳しい開発競争の結果、効率の良さを図る“正味燃費消費率(BSFC)”、“正味熱効率”では市販ハイブリット車以上の性能を発揮しており、次世代エコエンジンの開発に貢献しています。

(※2)NRE エンジンについて

ホンダ、トヨタ、ニッサンが、環境技術とモータースポーツの面白さの両立に向けて決定したエンジン規定。

- ・気筒配列 : 直列4気筒
- ・排気量 : 2,000cc+ターボ
- ・燃料吸気方式 : ダイレクトインジェクション
- ・燃料流量制限 : 鈴鹿、富士大会… 燃料流量95kg/h
その他大会……燃料流量90kg/h

◎オーバーテイクシステム

オーバーテイクシステム(以下OTS)は、レースに於ける見せ場の一つである追い越しをより促すシステムで、2009年より採用しています。

このシステムは、各エンジンに装備されている燃料リストラクターを活用し、燃料供給量を一時的に増加させパワーを上げる、というもので(※3)、ステアリングのボタン操作により、決勝レース中、最大100秒間使用可能です。また、使用回数は任意です。ただし、OTS作動後は100秒間の使用制限が設けられている為、昨年までの1回20秒間を5回使用できる仕様と比べ、使用するタイミングがより重要となり、戦略性が高くなっています。なお、OTS作動中は、ドライバーのヘルメット後方にあるオーバーテイクランプ(OTL)が点滅し、観客からも視認できるとともに、リアコーションランプも連動して点滅するので、後方のドライバーも視認が可能です。

また、OTS使用可能残時間は、OTL自体の色でわかりやすく表示いたします。

●OTLの識別

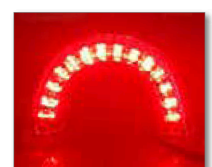
- ・残り100秒から20秒までは、グリーンの常灯
- ・20秒未満は、赤の常灯
- ・0秒で、消灯
- ・OTS作動時は、点滅
- ・100秒間の使用制限中は、スロー点滅
- ・OTS作動時は、リアコーションランプが連動



SF14用(左) SF19用(右)



残り100秒→20秒



残り20秒→0秒

(※3) オーバーテイクシステムについて

- ・メカニズム : システム作動時に燃料流量を10kg/h増加させる
- ・効果 : 約60ps、10%の出力増
- ・ルール : 決勝レース中、最大100秒間使用可能

◎タイヤ

2016年シーズンより横浜ゴム製のワンメイク供給です。横浜ゴムのスーパーフォーミュラ用ADVANレーシングタイヤは、スーパーフォーミュラが要求するグリップ、耐久性、安全性などの厳しい目標に対し、高いパフォーマンスを發揮、レースの盛り上げに貢献しています。

SF19用に新たに開発された2019シーズンタイヤは、フロントタイヤをこれまでより20mm広げ構造自体も変更し、さらに性能が向上いたしました。

2018シーズンより、全戦で「ソフトタイヤ」「ミディアムタイヤ」の2スペックタイヤ制が導入され、チーム戦略に多様性をもたらし、エキサイティングなレース展開を演出しています。



2019/10/19
大会組織委員会
大会事務局

公式通知 No. 2

SFレース宛

公式予選 Q1 グループ分け

- 2019年全日本スーパーフォーミュラ選手権統一規則第27条3. 及び本競技会特別規則第25条1) に従い、公式予選 Q1 におけるグループ分けを以下の通り公表する。

Group A (A組)				
Rank.	No.	Driver		Team
1	1	Naoki Yamamoto	山本 尚貴	DOCOMO TEAM DANDELION RACING
3	64	Alex Palou	アレックス・パロウ	TCS NAKAJIMA RACING
5	18	Kamui Kobayashi	小林 可梦偉	carrozzeria Team KCMG
7	36	Kazuki Nakajima	中嶋 一貴	VANTELIN TEAM TOM'S
10	20	Ryo Hirakawa	平川 亮	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL
12	16	Tomoki Nojiri	野尻 智紀	TEAM MUGEN
14	38	Hiroaki Ishiura	石浦 宏明	JMS P.MU/CERUMO・INGING
15	51	Harrison Newey	ハリソン・ニューウェイ	B-Max Racing with motopark
17	4	Yuji Kunimoto	国本 雄資	KONDO RACING
19	7	Yuichi Nakayama	中山 雄一	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS

Group B (B組)				
Rank.	No.	Driver		Team
2	37	Nick Cassidy	ニック・キャシディ	VANTELIN TEAM TOM'S
4	3	Kenta Yamashita	山下 健太	KONDO RACING
6	50	Lucas Auer	ルーカス・アウアー	B-Max Racing with motopark
8	39	Sho Tsuboi	坪井 翔	JMS P.MU/CERUMO・INGING
9	5	Nirei Fukuzumi	福住 仁嶺	DOCOMO TEAM DANDELION RACING
11	19	Yuhi Sekiguchi	関口 雄飛	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL
13	8	Kazuya Oshima	大嶋 和也	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS
16	65	Tadasuke Makino	牧野 任祐	TCS NAKAJIMA RACING
18	15	Jüri Vips	ユーリ・ビップス	TEAM MUGEN
20	17	Koudai Tsukakoshi	塚越 広大	REAL RACING

以上